

1.診療科紹介（専攻医・後期研修医向け）

項 目	入力箇所	備 考
① 診療科名	腫瘍内科	
② 診療科の特徴	臓器横断的にがん診療に取り組む腫瘍内科です。一般内科を基盤とする腫瘍内科・がん薬物療法の専門科としての役割に加えて緩和ケアにも取り組んでいます。	
③ 診療科のモットー	あらゆる種類・病態のがん診療に取り組む姿勢をもつこと。その時代における最良のがん診療を提供すること。	
④ 診療内容・実績 (2025 年 4 月時点)	年間新患数 232 例, 年間外来化学療法件数 3000 件以上。 臓器別では乳腺・消化器・肺・その他 (28%/38%/4%/30%) の割合。その他は頭頸部・婦人科・泌尿器・希少がんなどから構成。 各日に専門外来あり。入院患者数は 15-20 名程度。	外来の状況や、どういった患者さんが来られるか等
⑤ 診療体制 (2025 年 4 月時点)	がん薬物療法専門医 6 名, がん薬物療法指導医 3 名, 総合内科専門医 2 名, 呼吸器専門医 2 名, 血液専門医 1 名	現在の指導医数や、専門医数等
⑥ 診療科カンファレンス	外来・入院カンファレンス（自科）。緩和ケア科, 外科, 乳腺外科, 泌尿器科, 婦人科, 耳鼻咽喉科, キャンサーボードを定期開催	
⑦ 経験できる疾患	成人固形がん全般, 血液腫瘍は数例程度	
⑧ 経験できる技術・技能	一般内科（感染症, 栄養, ドレーン留置）管理, 腫瘍内科, 緩和ケア。中心静脈ポート留置など	
⑨ 学会について	日本臨床腫瘍学会, 日本癌治療学会, 米国臨床腫瘍学会, 欧州臨床腫瘍学会など	
⑩ その他	● 診療はチーム制で行っています ● 平日夜間・休日は完全当番制（休日月 2 回程度） ● 当直明けは完全 OFF です。休日に勤務した場合は平日に代休を取得します ● 勤務時間など相談に応じて柔軟に対応いたします。	

2.専門研修プログラムに準拠しない形での採用の場合

項 目	入力箇所	備 考
① 取得可能な専門医	がん薬物療法専門医（新腫瘍内科専門医）	
② その他	研修プランによっては呼吸器, 内視鏡, 血液など関連領域の研修追加をサポートします。	

4.指導責任者より専攻医・後期研修医へメッセージ

腫瘍内科医を目指す方以外

当科では一般内科的診療（医療関連感染症・血流感染症, 栄養療法, 診断学, 胸水・腹水の管理など）, がん診療の基本, 各診療科との連携・チーム医療, 医療面接（Bad news の伝え方）, 緩和ケア（疼痛緩和や心理・社会的なケア・調整の技術）はどの領域に進むにしても有用です。個々人のニーズによって有意義な研修となるよう調整します。当科は, 将来の志望領域や志向に関わらずローテーターの方を歓迎いたします。

腫瘍内科医を目指す方

腫瘍内科が設置されていない施設が多く、腫瘍内科があっても各病院の役割はそれぞれ異なるのが現状です。本来の腫瘍内科医にはあらゆる臓器のがん、重複がん、原発不明がんの診療を幅広くカバーすることが求められます。当院の腫瘍内科は 3 大がんである消化器がん、肺がん、乳がんに加えて婦人科がん、泌尿器がん、頭頸部がんを始め、原発不明がん、胚細胞腫瘍、肉腫、悪性黒色腫といった希少がんまでカバーしている国内でも数少ない診療チームです。徐々に担当患者数も増加し、最近では外来化学療法件数の 50%弱を当科が担当しています。

内科専攻医コースの間も腫瘍内科をローテーションすることが可能です。内科ローテーターの一部として腫瘍内科を研修することで早期に専門領域に曝露されます。入院中に担当した方を中心に可能な範囲で外来フォローできるよう調整しています。

内科専攻医プログラムが一段落し、FIX後は各科ローテーションをしなくてもあらゆる固形がんを経験でき、がん薬物療法専門医の取得条件は容易に満たすことができます。細切れではなく、長期間ひとりの患者さんの診断から治療、経過を担当することが腫瘍内科医として独り立ちを目指す上での近道だと思います。

2020 年度より連携施設に愛知県がんセンターが加わりました。当院の内科研修・腫瘍内科研修に加えてがん専門病院での研修が経験可能となりました。幅広い視点、視野を身につけるとともに、将来のキャリアプラン、方向性を決めていくうえでも有用な機会と認識しています。

当科は、総合病院としての強みを生かした内科研修に加えて、幅広いがん症例を経験でき、かつオンコロジストとしてのマインドを培える稀有な存在と自負しております。随時、仲間を募集しています。まずは一度、見学にいらしてください。